

「核軍縮へ『広島宣言』」

2016年04月14日

11日、広島市で先進7ヶ国（Gセブン）外相会合が行われ、「広島宣言」を発表した。7ヶ国の外相たちは平和記念資料館を見学し、平和記念公園を訪れて献花した。献花後、子どもたちから折り鶴で作った首飾りをかけてもらった。米国のケリー国務長官の求めで、原爆ドームまで行って視察した。核兵器を持つ米、イギリス、フランスの外相が被爆地を訪れたのは初めてで、被爆の悲惨を受け止めてくれたらう。予定の時間を越えた見学、視察であったという。資料館は重い展示ではあるが、実態は表し得ないほど悲惨だと思っている。少なくとも、被爆者の体験を聞いてほしかった。しかし、7ヶ国外相会合が広島で行われたことは画期的なことと言えよう。岸田文雄外務大臣は「今回の訪問は外相たちに強いインパクトを与えた。視察と宣言が相まって、核兵器のない世界に向けての気運を盛り上げることができるのではないかと成果を強調した。

「東京新聞」は「広島宣言」のポイントを下記の5点であると報道している。① 広島や長崎は、原爆投下で極めて甚大な壊滅と非人間的な苦難という結末を経験した。② 国際社会の安定を推進する形で、核兵器のない世界に向かう環境を醸成する。③ 核兵器保有国に透明性の向上を要求し、全ての国に核軍縮に関する対話促進を求める。④ 政治指導者は広島や長崎訪問で深く心を揺さぶられた。他の人々の訪問を希望する。⑤核兵器は二度と使われてはならないという広島や長崎の人々の強い願いを共にしている。

現在、核を保有している国は米国、イギリス、フランス、ロシア、中国の常任理事国の他、インド、パキスタンの7ヶ国、それにイスラエルは明言していないが、保有していると言われている。また、北朝鮮は国際的な発言権を得ようと核実験を行い、世界から非難されている。9ヶ国が保有している。核兵器は、使用が禁止されている地雷やクラスター弾に比べ、桁外れに強力な悪魔の兵器である。断じて、使用してはならない。

核兵器は戦争抑止力として位置づけられている。日本は唯一の被爆国でありながら、安全保障を米国の核の傘に依存している。だが、原爆の悲劇を知っている。核の「抑止力論」から、核の非人道性の「脅威論」に移して訴え、核を持つ国と持たない国との認識の開きに対し、橋渡しの任を果たし、核兵器の廃絶に向かって世界をリードすべきではないか。

オバマ米大統領は2009年にプラハでの演説で「核なき世界」を提唱し、ノーベル平和賞を受賞した。自分の世代では実現しないと言っていたが、米国は臨界前核実験を繰り返し、核の破壊力を高めている。ロシアのプーチン大統領はウクライナ紛争の時、原爆を用意したと明言し、北朝鮮の核実験にも歯止めがかけられない。核拡散防止条約も、技術が進み、テロ集団が核を所有する事態も考えられる。脅威は減少することなく高まっているのが現実である。世界の大国の政治家たちは力を比べ合い、優位に立とうとし、まるで子どもの喧嘩である。命を守り、破滅を止める世界の未来を見通した政治ができないものか。

今回のGセブンの外相会合に関し、日本の報道はケリー長官の一挙一動に大きな焦点を当てていた。米国民の半数以上が、広島、長崎への原爆投下は戦争早期終結のために正当と見なしている。ケリー長官の広島訪問への反応を見て、オバマ大統領の広島訪問の是非を探らしい。オバマ大統領の任期は残り少ないが、広島に来て、プラハでの「核なき世界」の演説を、もう一度してもらいたい。広島宣言で謳われているように、被爆者の痛み苦しみを知り、核の非人道性を認識し、核軍縮、核廃絶に向かって、一歩でも前進してもらいたいものである。まず、核兵器使用禁止条約を作ることが先決であると思う。